徳島市 第10期 認知症施策推進計画　施策×調査 対応マップ（国の8基本的施策を主軸に再編／取組施策は仮設定案）

			計画へ反映			調査結果分析対象					
No	国の基本的施策	関連する重点目標 KPI区分	取組施策 （ゴール／第10期案）※仮	取組の提案（具体施策イメージ）		ニーズ調査	本人調査	家族調査	関係者調査	市民調査	想定される課題仮説・活用ポイント
①	認知症の人に関する国民の理解の増進等	重点目標1（アウトカム：基本的知識の理解度／新しい認知症観の理解と振る舞い）	「新しい認知症観」の普及と理解促進、認知症サポーターの養成・活動、本人発信の支援、学校教育の推進 【実施状況】 ●実施中：サポーター養成・本人発信・認知症ケアパス ⇐一部・拡充：学校での教育 ○新規・検討：「新しい認知症観」に立った広報の刷新	・サポーター養成（学生・企業・地域）と活動の場づくり ・本人メッセージ／本人発信の機会創出 ・学校での認知症教育の実施 ・新しい認知症観に立った広報の刷新		問9：認知症に関する相談窓口を知っているか（地域包括支援センター等の認知状況） 問16：福祉・介護予防に関係する名称・用語をどの程度知っているか（認知度）	設問10：これから診断を受ける方や家族へ伝えたいメッセージ（経験からの発信） 設問9：家族や地域の人にしてほしいこと／してほしくないこと	設問12：これから介護する方へ伝えたいメッセージ（経験からの発信）	設問2：認知症基本法を知っているか（内容理解の程度） 設問8：地域住民との交流・啓発活動の実施状況	問7～問9：認知症の基礎知識（脳の病気か／早期対応で進行を緩やかにできるか／治療で改善する場合）の理解度 問10：将来自分が認知症になったときの暮らしを具体的に想像できるか（自分事化の度合い） 問11：「新しい認知症観」を知っているか 問12～問15：自分らしく暮らせると思うか等の考え・本人への接し方・声かけ等の行動意向 問16：認知症に対して持つイメージ 問25：問25-1：認知症サポーターの認	市民の理解度・スティグマの実態を把握し重点目標1のKPI現状値とする。若年層の学習機会の有無が学校教育・大学連携施策の根拠に。
②	認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進	重点目標2・3（意思の尊重／支え合い）	認知症バリアフリーの推進（チームオレンジ・見守り・外出移動支援・独居高齢者支援・災害対応・金銭管理／消費者被害防止） 【実施状況】 ●実施中：とくしま見守りねっと・消費者被害防止・個別避難計画 ⇐一部・拡充：チームオレンジ・独居高齢者支援 ○新規・検討：外出・移動支援	・チームオレンジの整備（本人の希望起点） ・見守りネットワーク／外出・移動支援 ・独居認知症高齢者が支援につながる地域づくり ・個別避難計画・災害対応		問7：日常の「たすけあい」（手助けをする・受ける関係）の状況 問13：地域での支え合いの体制についての考え 問5：地域での活動への参加状況	設問6③：普段よく出かける場所（外出先） 設問7：困っていること・つらいこと（外出が難しい等）	設問11：地域にあったらよいと思う支援（外出支援・見守り・家事支援 など）	設問8：地域との交流・連携の状況（地域行事への参加・ボランティア受入等）	問24：地域で安心して暮らすために必要だと思うこと（見守り・外出支援・居場所 等） 問26：見守り活動への参加・協力意向 問26-1：認知症カフェ（居場所づくり）活動への参加・協力意向	外出・見守り・消費者被害のニーズ規模を確認。独居高齢者の社会的孤立への対応が論点。
③	認知症の人の社会参加の機会の確保等	重点目標2・3	本人ミーティング・ピアサポート・就労／社会参加の促進、若年性認知症の人への支援 【実施状況】 ●実施中：若年性認知症支援（連携） ○新規・検討：本人ミーティング・ピアサポート・就労的活動支援	・本人ミーティング、ピアサポート活動の推進 ・就労的活動・役割のある社会参加 ・若年性認知症支援コーディネーターとの連携 ・本人発信を社会参加の機会につなげる		問5：地域での活動への参加状況 問6：就労の状況	設問5：仕事（診断時の就労状況とその後の変化・辞めた理由 等） 設問6：楽しみや趣味、やってみたいこと・あったらよいサービス 設問8：認知症の方同士の交流の有無・希望	設問10：仕事と介護の両立（影響・退職理由）	設問7：利用者本人の意思・希望を尊重した支援ができているか	問24：本人が思いを発信できる機会など、必要だと思う支援 問25-1：サポーターとしての活動実態（地域活動への参加・職域での対応） 問26・問26-1：見守り／認知症カフェへの参加・協力意向	本人の就労継続・社会参加・交流の場のニーズ。若年性認知症の就労支援が論点。
④	認知症の人の意思決定の支援および権利利益の保護	重点目標2	意思決定支援の浸透、成年後見制度の利用促進、消費者被害の防止 【実施状況】 ●実施中：成年後見制度の利用促進・消費者被害防止 ○新規・拡充：意思決定支援の普及・研修	・意思決定支援の研修・普及（医療・介護・行政） ・成年後見制度の中核機関・利用支援 ・消費者被害防止に向けた機関連携		問12：成年後見制度を知っているか・利用状況	設問4：医療についての思いや希望 設問9：家族・周囲にしてほしいこと／してほしくないこと	設問6：介護の中での困りごと・つらいこと 設問3③④：診断時の説明への評価・もっと知りたかったこと	設問7：本人の意思を尊重した支援の状況 設問4②：権利擁護・虐待防止に関する研修の実施	問14：本人の意思を尊重し対等に関わりたいと思うか 問18：認知症であることを周囲に知られることへの抵抗感	成年後見の認知度・利用実態。本人意思を尊重したケア・支援ができているかが論点。
⑤	保健医療サービスおよび福祉サービスの提供体制の整備等	重点目標3	早期発見・診断後支援、認知症初期集中支援チーム、認知症地域支援推進員（位置づけ・役割の明確化）、医療介護連携、認知症カフェ、認知症ケアパス 【実施状況】 ●実施中：初期集中支援チーム・地域支援推進員・医療介護連携・認知症カフェ・ケアパス ⇐一部・拡充：早期発見～診断後支援（※推進員の役割明確化は新規対応）	・早期診断と診断後の切れ目ない支援 ・初期集中支援チームのアウトリーチ ・地域支援推進員の役割明確化・専任配置 ・医療介護連携、認知症カフェ、ケアパス更新		問8：健康状態 問9・問10：相談窓口の把握・相談窓口の利用 問11：介護予防の取組 問14：終末期の療養についての希望	設問2：最初に認知症に気づいたときの状況（きっかけ・最初の相談先・相談までの期間） 設問3：診断を受けたときの状況（年齢・期間・気持ち） 設問4：医療への思い・希望	設問3：気づき・診断時のこと（きっかけ・診断場所・説明への評価） 設問4：住まいや生活の状況 設問5：これまでの介護の状況（期間・頻度・介護時間） 設問8：介護に関する情報入手・相談	設問1：施設・事業所の概要（種別・定員・職員数・認知症利用者割合） 設問3～設問5：認知症ケアの取組・職員体制と研修・医療介護連携の状況 設問9：運営上の課題 設問10：今後必要と考える支援	問19-1：「認知症かも」と心配になったとき、すぐ相談・受診するか／様子を見るか 問19-2：すぐ相談する場合の相談先 問19-3：様子を見る・ためらう理由 問20：相談窓口・機関の認知（地域包括・疾患医療センター・地域支援推進員等） 問21（当事者・家族）：最初に相談した相手・窓口 問22（当事者・家族）：診断後に役立った／不足を感じた支援	気づき～診断～診断後支援の切れ目、医療介護連携、人材不足が論点。別添資料を踏まえ地域支援推進員の役割を明確化。
⑥	相談体制の整備等	重点目標3	相談窓口の整備・周知、家族支援とピアの推進、認知症ケアパスの周知、治療・介護と仕事の両立支援 【実施状況】 ●実施中：相談窓口・家族介護者支援・ケアパス周知 ○新規・検討：治療/介護と仕事の両立支援	・相談窓口の分かりやすい一元化・周知 ・家族会／一体的支援／ピアサポート ・ケアパスの作成・更新・周知 ・両立支援（企業との連携）		問9：相談窓口を知っているか（把握状況） 問10：相談窓口の利用	設問2②：最初に相談した人 設問8：認知症の方同士の交流	設問8：介護に関する情報入手・相談相手の有無 設問11：相談窓口の充実など地域にあったらよい支援 設問12：これから介護する方へのメッセージ	設問6：家族支援の実施有無・内容・課題	問17：受診・相談をためらう気持ちとその理由 問19-1～19-3：早期相談の行動意向と、様子見・ためらいの理由 問20：相談窓口・機関の認知 問21（当事者・家族）：最初に相談した相手・窓口	相談窓口の認知度の低さ（ニーズ問9現状22.1%）。家族の孤立・情報不足への対応が論点。
⑦	研究等の推進等	―（市町村では限定的）	調査データの蓄積・活用と好事例の横展開、国・県・研究機関との連携 【実施状況】 ○新規：調査データの活用（今回調査）・大学/研究機関連携	・本5調査をPDCA（立案・評価）の基礎データ化 ・好事例の収集・共有 ・国/県/研究機関・大学との連携		本調査全体（集計結果を現状把握・課題抽出・KPIの基礎データとして活用）	本調査全体（同左）	本調査全体（同左）	本調査全体（同左）	本調査全体（同左／大学・専門学校連携は研究面の資源にもなる）	5調査の結果を計画の現状把握・課題抽出・KPI設定の根拠として一元的に活用。大学連携は研究面でも資源に。
⑧	認知症の予防等	重点目標（予防：新しい認知症観に立った趣旨）	通いの場・生活習慣病予防・社会参加を通じた予防（「予防＝ならない」ではない正しい理解の普及） 【実施状況】 ●実施中：通いの場・生活習慣病予防・社会参加 ⇐一部・拡充：新しい認知症観に立った予防啓発	・通いの場、運動・生活習慣病予防 ・社会参加による孤立解消・役割保持 ・科学的知見を踏まえた事業 ・新しい認知症観に立った予防啓発		問2：からだを動かすこと 問3：食べること 問8：健康 問11：介護予防 問5：地域での活動（社会参加）	設問6：楽しみや趣味・日常生活	設問9：自身の気晴らし・休息	―	問26・問26-1：見守り／認知症カフェ活動への参加・協力意向　※市民調査では予防の取組設問は割愛（必要なら追加可）	「予防」の誤解（＝ならない）を避け、新しい認知症観に立った啓発が論点。通いの場参加状況。